

十卷第一九
物宛返入

13
2132
74



13特
2132
74

74

野于實遠入叙



野于實遠入叙

野于實遠入叙

雜于賣物吉愿之花視于百

貫之形編笠茶店之雪景色

有於于山屋曰且府園之楓有於

于竹邑寂中月四時之佳興無



135

以盡乎越十返舍主人偶然採
毫而書佚之且其搜妓館之
巢穴而命以謂竅這入者乎
於青樓弄屋街之寓居

菊河亭主人題

ユカゲ
ユキ

自序

朝野同群

寶慶文庫

和論緒曰野子雨を然りと朝
塚中よの泣くと感よや伊勢の物語
よの明孤子喰下鶏をとい後柳
乃列と孤子青梅紙の巢穴
係し是は天は意の九ら即助給

玉垣たまがきやうねまがねの雑ざつの中ちゆう。鼻筋はなすぢの字じし
跡あと于こ宮みやと執とく掌ての働たくらた。玉子たまご七
舞やま子の振まり伴いく。身こ仕し染ま身み室むろ乃
思して流ながす。姐あね己おの化かの皮かわと脱ぬし
物ものよく後のち田のの杜つふ者ものの形かたちを
矢やよさよの本もと田のの赤あかの梁はりあひひら

室むろの振まらぬ男おとこの孤ひとりふして。僧そう妓ぎの
下した馬ま子この赤あかの梁はりあひひらとよ。
屍しかばね赤あかののりのり孤ひとりらら醜みにく夫おとこ乃すなは尺ひか孤ひとり追おひ
て家いへよよ至いたるる者ものあり。孤ひとり養やしや奉ほうの村むら長ちやう
乃すなは如ごとくくかかるるてて乞こをを着きぬぬ居い居い續つ
の吾われ風かぜ呂りよ骨こつ董どうかか思おもひひまま宿しゆく物もの乃



自畫

12

四者篇

第一野子乃由来

第二後朝其口舌

第三玉章の性根

第四日乃空気

第五終夜其空情

上件

青掃奇談狐竇這入

十返舎菅著

第一章

此の五が姑獲は幽王がやをさよらも。
 おも様は谷々る。紀の字屋の妻は佳れる。西
 絶あり。保在奴あり。若も帝はそがおる。割る
 指南車の歎息甘つ笑くのあつ。屏風乃
 狸はまきこえて。唐人の妻を。氣栗同は。道
 由は。お奴と愛る。子房あれば。一は。羅維と。脱

招世極あり。大のつと開く。金の威光は、林峯
金が力も追むべ。只跡と貨とまるとは、御の
活計あり。伍子走日も、脂と喰入て引ぬ。し。
されば長者のる。焼も。世さるる。勿忽消え。
合志の一。焼傳の作。お釋の。母と。住姑。ま
ふ。あ。る。べ。死。り。む。や。る。式。一。角。の。死。は。い。産。土。乃
吉。我。と。後。し。ち。漆。の。程。義。は。八。本。安。一。片
の。月。は。あ。る。の。地。は。な。ん。と。女。秋。の。佳。真。へ。こ。る。は

つ。き。い。志。の。こ。ち。あ。う。む。る。の。お。の。肉。屏。子。ま。さ。さ
と。凄。き。甘。夏。の。日。の。作。ま。ん。は。家。ま。さ。と。お。ま。せ。ん
珠。の。免。て。ま。る。ハ。お。ま。夫。が。い。の。世。田。男。も。折。え。の
あ。こ。ま。ま。ま。ま。ま。い。例。て。免。の。府。子。か。り。任。吉。の。井
寂。ろ。ろ。兀。躬。父。も。在。同。の。七。舟。子。掉。さ。う。て。夜。ぐ
山。の。草。と。志。や。が。う。例。は。ま。ま。感。の。情。子。沈。む。り
や。毒。あ。の。こ。く。毒。が。う。れ。は。る。色。怒。の。一。糸。か。り。此。ま
こ。こ。ろ。の。何。地。や。あ。り。ん。る。後。を。吉。を。と。知。と

あゝ新にも。形の如く。娼妓の級。おと。懸る。吊
 懸。釣鐘。と。二。その。よう。づ。れ。出。つ。る。の。母。は。笑。ん
 せん。お。の。と。ひ。付。た。り。ん。と。そ。と。そ。ろ。ろ。が。目。よう。う。い。れ。バ。
 づ。れ。と。り。り。て。を。と。と。ま。ら。や。り。や。あ。め。ま。れ。こ。と。
 釣。鐘。の。子。万。行。の。を。と。さ。な。り。ん。と。そ。は。懸。る。の。吊
 鐘。激。舞。の。め。い。い。ん。が。た。ふ。あ。ら。び。釣。鐘。の
 ゴ。ん。と。の。子。口。も。も。八。粒。酒。と。消。滅。し。苦。苦。抱。か
 と。起。し。め。二。三。時。中。人。間。の。用。と。さ。る。と。留。め。し。

ハ

それ。は。吊。鐘。の。言。令。色。と。以。て。娼。妓。の。中。に
 と。し。石。に。不。我。の。妾。火。と。う。つ。し。て。ま。ん。光。と。懸
 を。此。あ。ら。う。と。同。敷。子。探。あ。の。の。の。の。抗。子。脚
 て。忽。然。と。此。と。害。み。な。り。ん。故。り。母。と。う。ち。ん。の
 母。の。手。に。し。養。心。の。片。と。挿。し。家。士。の。心。を
 洗。白。く。し。な。す。と。路。を。や。り。の。百。や。二。百。と。言。ひ。ま。か
 の。ま。れ。ば。と。酒。陶。の。ぶ。く。と。手。玉。あ。ら。う
 る。な。り。母。の。一。多。と。命。お。し。て。自。今。妓。妓。は

年いく。万まん務むをま言ごんをごら。おお独どくとと妹い。ううららび
 修しゆのの地ちいいももままままとと。ままああくくもも花はなををよよ帰かへ
 りりるるがが。ままららああててもも凡はん丈じゆ鄙び情じやうののああささまま。ささ中ちゆう
 者さよよううのの届とどささるる。おおのの尾びがが射やしし。文ぶんののよよ同どうの
 毒どく。ささららるるはは邪じや忽とつ然ぜんかからら。何なにののゆゆととりり盡つき
 ははららんんとと。いいひひききここららるる。文ぶんををここららるる。
 ちちののううののめめああごごんんををかかららいい。ここららるる。
 ちちととりりややああががややららるるやや。ゆゆめめいいらら

ささららんんとと。いいひひききここららるる。
 いいひひききここららるる。
 ああののいいひひききここららるる。
 今いまももいいひひききここららるる。
 ううちちああららいいららるる。
 ちちののううののめめああごごんんををかかららいい。
 ののううののめめああごごんんををかかららいい。
 ちちののううののめめああごごんんををかかららいい。

ぐんをさむしう宛又おらうくのまらうと名と
 かしよくくこまらるるあざんとドのこころり
 吉をくは又とらんちうて公神有頃天よ
 飛去りぬばはれあけいひくまもんの内でい
 あやまうこ綿あさぬの寝室えんあまの皮乃
 皮銭布さいふよりうつむよまらうもかるせうらる
 ら招と足稼らしあじん不使くとものうとぞ待わら
 〇第四章
 王照君の海宮る里月糸腸揚き宛が利お宛
 休五

一本支春あつはるやるとらま宮宛みやの宛もりくやとありあ斗たけ
 思ひうなやむこくやのまのとがちのてぎう宛
 玉のたまご 大むらうの向あはまりうたをう宛るうとぞけるがよ
 ぐりゆのめおひのうあつき目かあくをれてうこま
 よよまてとをよあんとらうらうまんとらうらよせんぶらうり
 づけてのうゆともひるまのぶきまは内ハヤめちぞめま
 うちよあうとらうとらう
 深里ふかさと 捲さんまきさん 今
 湯へおへうやみん湯と深ふかまさんゆとあめらる
 んと玉たまごぶよもづうぐてあういせん深ふかその
 ちうぶさんまゆいびさうぐうでまさんが出るん

あんーと。わいこねぎらうで。さら移入くらあんーと
 う。りよ。それが。まふらうつて。くらうざんま。[際十二]
 ちんさん。グンリヤア。あんの。びんぐさ。でざんやう。が。あん
 せんま。こ。ア。が。ざんせんよ。[王] めんよ。ざんやう
 よ。よ。ざんーゆ。う。ち。ね。つ。て。の。お。ト。う。つ。む。い。て。そ。で。は
ちんさん あんの びんぐさ でざん やう が あん せん ま こ ア が ざん せん よ 王 めん よ ざん やう

りんそもらうらんの際。ちよらうくやで。ちらん
 せんー。[捲] コレ。た。あ。さん。ち。あ。と。ら。う。び。い。らん。ト。あ。い
ちんさん あんの びんぐさ でざん やう が あん せん ま こ ア が ざん せん よ 王 めん よ ざん やう

う。あ。う。移入。が。あ。う。う。う。が。この。な。あ。さん。なん。び。ア。ゆ。よ

中一ろりて。おめりれりてゆついで。うら。あ。と
 ぢ。あ。ア。う。ん。る。は。あ。の。せ。ら。ふ。た。る。き。や。人。は
 たり。ぢ。と。り。せ。て。こ。お。め。や。ア。り。り。そ。ま。の。い。で
 ぢ。り。り。せ。ん。ぶ。ん。お。め。は。ん。ゆ。い。や。ア。り。り
 く。あ。つ。こ。と。つ。り。り。い。き。よ。吉。捨。ぐ。り。ち。を。何
 と。ら。る。く。り。り。入。国。お。め。入。ん。又。を。と。お。を
 ぢ。ん。一。か。り。り。や。り。と。め。入。吉。り。り。と。せ。る。に。て
 ぬ。り。ら。ア。国。お。め。入。ん。ぐ。こ。ん。入。ち。ら。で。る。ん。ま。も。

め。み。る。ぶ。ん。ら。ア。移。ん。ら。う。一。な。と。あ。り
 一。ゆ。り。り。吉。り。り。や。ア。あ。り。り。が。ま。ら。り。れ。で
 くる。か。ん。ぶ。り。り。そ。ま。い。り。も。を。い。ち。め。の。い。や
 で。さ。入。ゆ。ぢ。が。こ。り。り。お。め。り。り。ら。ら。入。ぶ
 り。れ。ぢ。お。め。入。よ。あ。ひ。て。な。り。り。で。ま。り。ら
 め。の。い。ち。り。ん。の。ぢ。は。と。り。り。は。り。ち。が。う。ん
 り。形。を。一。せ。ら。の。が。さ。ぢ。が。入。ん。ぐ。り。り。う。り。り
 と。そ。れ。が。と。り。り。と。ま。の。い。り。り。と。

一。ゆ。り。り。や。ア。あ。り。り。が。ま。ら。り。れ。で
 ら。り。あ。い。ま。も。

ちん—**吉**。いひしんごさういあんどあ
 さいざいがん利よきがある**玉**をんる。はのち
 うさんあも。あひてちんちんささるる。あ
 いせん久**吉**。十二そりやアあひ移入でさ**玉**それ
 どり。あ—いさうやうさうさうさうさうさ
 トラびまどかよとあんよあめくさんいんせ不なり。
 くらこつけてそんるさういひも。それさうさう
 ちうぐんくまもん—ちやア。福うう**吉**

ぶよ—**玉**。ちんごさういあんどあ
 内怒ないちの私わたくしよそ所ところと縛たづなせし家者けしやの
 函つみり。そ敬やうが死るとさうべとん。文宣王ぶんせんおう
 乃確論たつごんちん。国くにと信しんち珠たまと信しん
 漢かんの武ぶ者しや。挙ある怒ちのおよ内全ないぜん乃
 守まもりと矢やよが故ゆゑよ。災わざ害がい侮おそびらると有あり
 此こゝ者しやをえ。一回ひとひ王子おうじの神かみ陀だ小せう仍なほて。その
 本もと原もとよ敬やうがるるとん。送いん感かん心しんの情じやう忘れ

かく。復び玉の尾が海さこは迷ひ亡女会
乃 梳る 打師らうが。又のやと夜中よ玉
子の非体出現あつて。此よは待とみあふ

尊守今早分扱使客 暗切髪断為春長

原是賣物倡妓意 仕締禪休成夢中

はくしはまよるうりくもなるは外乃
なぐ川のまぐくハ借金の劇

おのちを仰る友見て大は涙き。勢る悪
味の血中も思ふ子に任しなうく正教
あや。神その体もあつと原く感し。心
句の戒をぶどく。中ま的しそ再び悲
暝し。於此と影てあふよ友と透れ為宅
しんるが。おし情の絶切てもきれぬ。その
清きう濁るよこの体はれはあう。於ね稿
そのの慈眼しあふ非愛石忌後乃威治

小依てまをくばり復しるるを有坊の
らいたる ことへん ことら
身は其の後を伊よるに覺えよ入と

やあままべくは同出くくし

孤實這入後編

春日樓日照雨

十返舎作

来陽
中板

跋

周の鼎も隣物乃乃爐子

のやと。美奈の玉爾玉も彫工所の

小刀子。やまも。琴平人の能がら

中しや言先以ふ十返舎作

何れも乃清能と中し。あし。

命なつげを野の千ち乃の室むろををり入いり
 りよ。予おれ端はな千ち細こくく日ひ中なかをを行ゆく
 乃の甲か牛ぎうハハ極きよく色いろ千ち室むろをを奴やつ乃
 着く板いた縛ばく々々乃の糸いと々々乃の心こころ々々乃の此
 小こ冊まつ皮かわ上うへ糸いとのの首くびちち入いり
 そのその行ゆくく上うへ心こころ解とききとと寄よ

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

とやいええ先まへ妙たへととややいいとと心こころ執とつとと
 けけとと妙たへ物ものちち乃の室むろ元もと千ち異ちがひひなる
 ちちととちちああくくしてして一ひと回まわ遭あひひ六むひひく
 子こののああるるゆゆりり子こ相あ互ひをを死しにに推おえ
 ちちああくくしてして神かみ下した良よ天てん天てん涯げ子こ
 ちちああくくしてして大おほ集ありりてて糸いと々々

成春十編書戲作目錄

備客あま散ぐ學かん子問

全一冊

青樓せいろう松しょう火の裡うち

同

素見ひや數かず子こ

同

野の中ちゆう雀さく色いろ時とき

同

右より赤い紙に記す

明本情
物象包

少風疾

三

三